

炭酸カリウム産業の現状

（ 令和3年6月8日  
関税・外国為替等審議会  
関税分科会特殊関税部会  
経 済 産 業 省

# 炭酸カリウムの概要

## 炭酸カリウムとは

- 炭酸カリウムは、無機化学薬品として広範な製品に使用され、白い粉末状(固形品)と、水に溶解させた無色の液体品がある。
- 塩化カリウム(KCl)を溶解した水(H<sub>2</sub>O)を電気分解し、水酸化カリウム※及び塩素、水素が発生。その水酸化カリウム水溶液を炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)と反応させると炭酸カリウムが生産される。
- 炭酸カリウムの国内生産者は2社のみ。

(※水酸化カリウムについては、平成28年に不当廉売関税課税措置が発動。令和2年8月から、同措置の延長調査を実施中)

【炭酸カリウムの外観(固形品)】



(写真提供:カリ電解工業会)  
※本邦産

## 炭酸カリウムの主な用途

- 炭酸カリウムは、ガラス原料に投入すると溶融性を高めると共に、透明性や光沢性等を高める効果があるため、高精細な高い品質レベルが要求される液晶パネル用のガラス基板など、ガラス類の製造原料として使用される。
- そのほか、中華麺に添加するかんすいの原料、チタン酸カリウム(主に自動車用のブレーキパッドの原料)の原料、衣料用洗剤・食器用洗剤の原料、カリウム塩類の原料、医農薬の中間体原料など。

【液晶パネル用ガラス基板】



(写真提供:AGC(株))

# 炭酸カリウム産業の現状等

## 炭酸カリウム産業の現状(調査対象期間:平成29年～令和元年)

- 炭酸カリウムの生産国は中国、韓国、米国など。韓国は世界最大の輸出国(令和元年約10.5万トン)。
- 我が国における韓国産炭酸カリウムの輸入量は、平成29年の4,918トンから令和元年には5,293トンに増加しており、国内需要量に占める市場占拠率を拡大。
- 我が国の炭酸カリウム市場が縮小傾向にあるなか、不当廉売された調査対象貨物が国産品のシェアを奪い、その輸入量を維持したため、国産品の国内販売量及び市場占拠率は、調査対象期間を通じ、減少傾向にあった。

## 不当廉売された調査対象貨物の影響

- 炭酸カリウムは幅広い用途に必要な基礎的な化学品であり、仮に不当廉売された調査対象貨物の輸入が続けば、国内産業に必要な炭酸カリウムを輸入品に大きく依存することになり、輸入品による価格支配が生じる等川下産業を含めたサプライチェーン全体にも悪影響を及ぼすおそれがある。

## まとめ

- 国内生産者は、安価な韓国産炭酸カリウムの輸入を引き合いに製造費用の上昇分を価格に転嫁することができず、利潤が著しく悪化するなどの損害を被っている。よって、上記産業の現状も踏まえれば、確定措置の発動による保護の必要がある。